五条遺跡発掘調査資料

1983年 11月

善通寺市教育委員会

1. はじめに

五条遺跡は香川県普通寺市金蔵寺町五条に所在し、昭和34年に普通寺 第二高等学校分校で、農具舎の建設中に多数の弥生土器が発見されたこ とで注目を受け、現在ではその周辺一帯からも遺物の出土することが知 られており、今後の調査による遺構の確認及び金倉川を基盤とした三井

遺跡や中ノ池遺跡など、付近の弥生遺跡との関連や正確な 遺跡の性格や、その範囲の把 握が期待されている。

今回の調査は、普通寺市に よる竜川幼稚園跡地の売却に 伴う遺構の確認調査である。

2. 調査の概要

調査予定地区はこれまでに 病院・高等学校・幼稚園が繰



第1図 調査区位置図 (1:50,000)

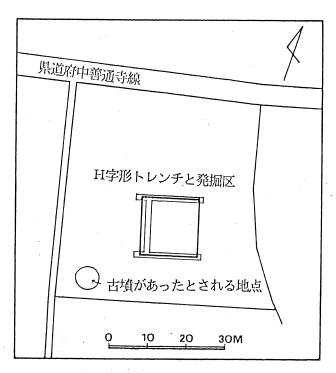
返し建て直されており、遺構の破壊が考えられたことから、まず確認のために日字形にトレンチを設定し調査を行なった。その結果、地表下60cmの地点で多数の柱穴をもつ遺構面と、それに伴う遺物が認められたため、トレンチで囲まれた範囲内に発掘区を設定し、昭和58年10月17日から同年11月10日まで調査を実施した。

遺構は一部攪乱されていたが、同一遺構面上で、弥生の落ち込み・中世の溝状遺構・近世の柱穴等を検出した。また、出土した遺物等からも、この地域がその恵まれた地理的環境から、弥生時代以降、人々の生活の場として連続して活用されてきたことが瞭然に判断できた。

また、売却予定地内に古墳 一基が存在していたことが知 られており、ここにもトレン チを設定したが、攪乱がひど くその痕跡すら認められなか った。

3. 遺構と遺物

地表より60cm程の深さまで ガラスや石炭の燃え殻を含ん だ攪乱層が続き、この下に3~ 4cmの厚さの灰白色砂質土層 があり、染め付けの陶器片・



第2図 トレンチ・グリッド配置図

寛永通宝・土製人形等が出土した。この土層を取り除くと黄褐色砂質土 の遺構面が現われ、柱穴群や溝状遺構を検出することができた。

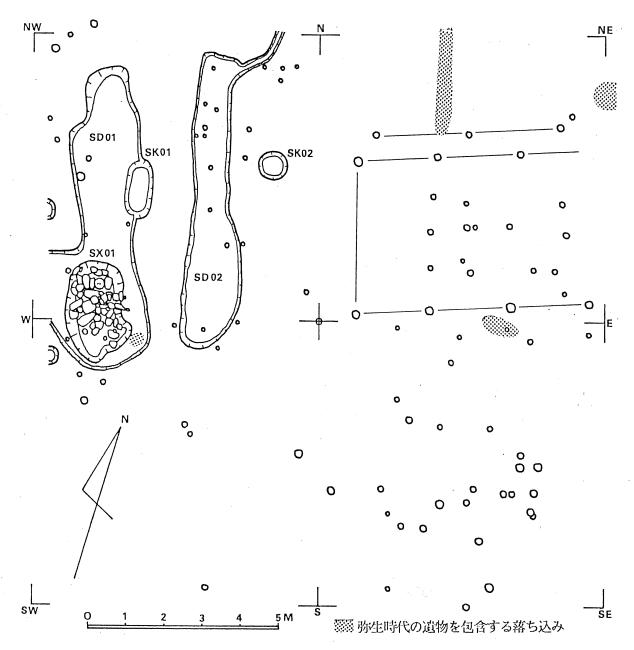
弥生時代の遺構の埋土は暗黒色粘性土で、弥生時代前期の土器片、サ ヌカイト製石包丁・石鏃、緑色チャート製敵石等を含み、遺構上に染み 状に存在していた。

SD-01·SD-02は埋土が明灰色弱粘質土で、河原石・弥生土器・サヌカイト片・須恵器・土師器・土鍋・擂鉢・背磁等を含んでおり、SD-01の南端部にて碾き臼を基準に大型の河原石(砂岩)を組んだ配石遺構(SX-01)が検出された。碾き臼は摩耗して使用困難になったもので、他の石についても火に接し赤黒く変色したものが多く、長期間にわたる生活の痕跡としてとらえられる。この配石遺構の性格は不明であるが、下部構造を何も持たない反面、上部が平坦に構成されていることから、上に何らかの構造

sw

物を伴っていた可能性が強い。

柱穴群については、そのほとんどのものの埋土が遺構面上の灰白色砂質土であり同様の遺物を含んでおり、この遺構面に伴ったものであると考えられる。中世以前の遺構はこの面で削り去られており、部分的にその痕跡を残しているだけとなっている。



遺構群の調査終了後に遺構面下の土層確認のためにSEグリッドにトレンチを設定したところ、遺構面から約1m掘り下げた地点まで黄褐色砂質土層が続き、ここから淡青色の砂利層に変わり水が湧いた。また、こ

0

土

る

所

て

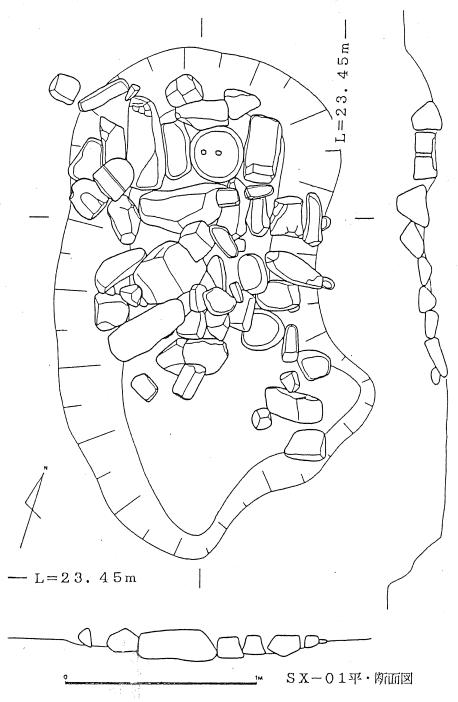
お

想

上

神

文



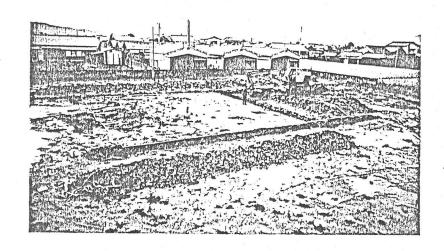
の黄褐色砂質土層中(遺構面下約20cm)から、この土層が形成される際に 土砂と伴に運ばれてきて堆積した状態で、縄文時代後期のものと思われ る土器片が出土した。土器の表面は全く摩耗しておらず、そう遠くない 所から運ばれて来たものが、短期間のうちに堆積したものと推定される。

4. おわりに

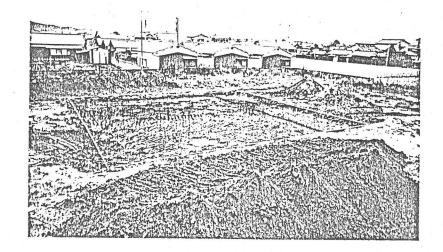
今回の調査では、弥生時代の遺構は後世の土層攪乱のためにその痕跡 しか認められなかったが、五条遺跡の推定域はかなり広いものであり、 今後の調査を期待したい。

また、最近も四国横断自動車道路建設工事に伴う発掘調査などによって、五条遺跡と同時期のものをふくめて多数の遺構や遺物が発見されており、これまでに知られているものを含めると、かなり大きな文化圏が想定できる。加えて、縄文土器については五条遺跡以外にも稲木石川・上吉田での出土例があり、今後は縄文文化を丸亀平野にも求めてみたい。沖積層の下に縄文遺跡の眠る可能性は非常に高く、今後の調査による縄文遺構の発見にも大きな期待を寄せる。

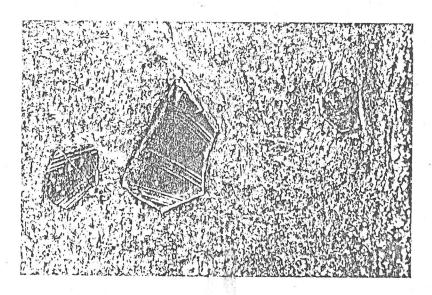
重機による試掘 (調査区全景) 北から



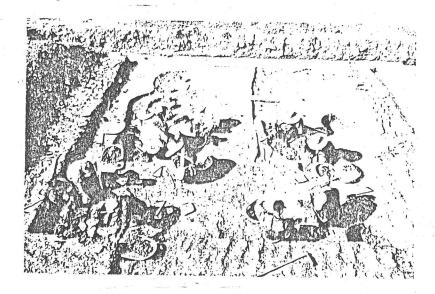
表土除去後の状態 北から



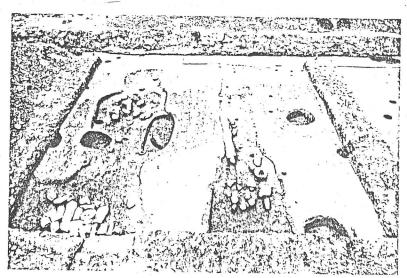
遺物出土状態 (試掘坑内)



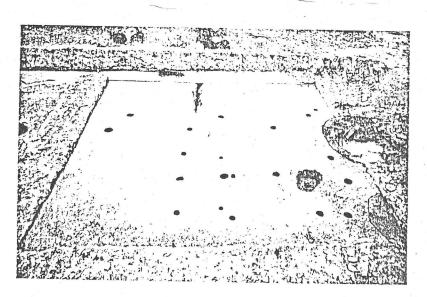
発 掘 作 業 風 景 (NWグリッド) 南から

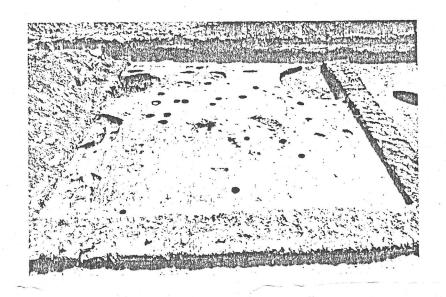


NWグリッド 遺構検出状況 南から

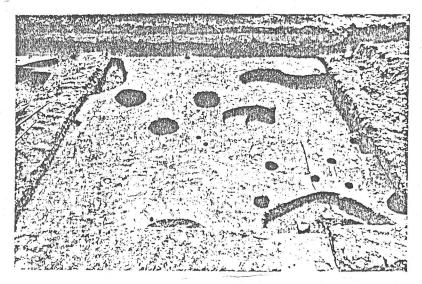


NEグリッド 遺構検出状況 南から





S E グリッド 遺構検出状況 北から

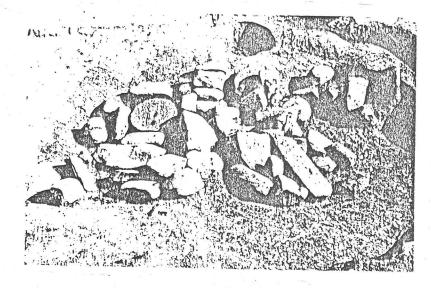


S W グリッド 遺構検出状況 北から



NEグリッド 遺構検出状況 北から

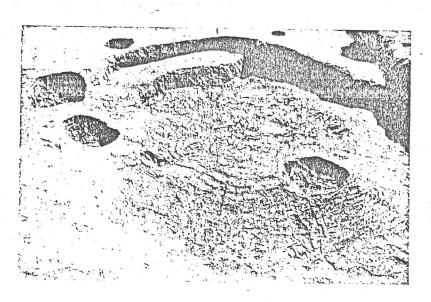
配石遺構検出状況 (SX-01) 西から



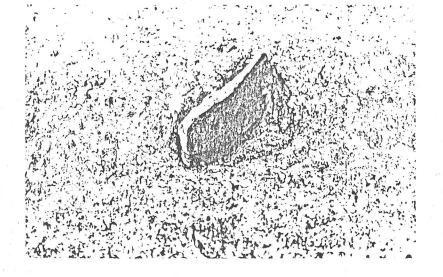
配石遺構検出状況 (SX-01) 北から



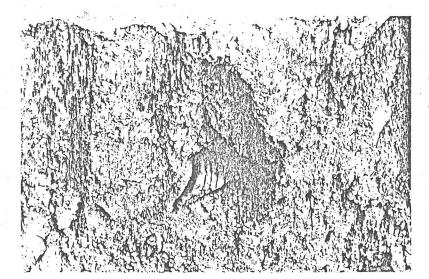
SX-01石材除去後 北から



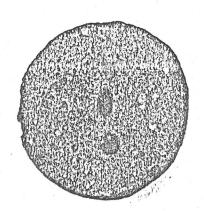
遗物出土状態 (土鍋)

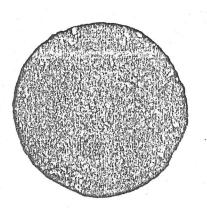


遗物出土状態 (縄文土器)



SX-01中の碾臼



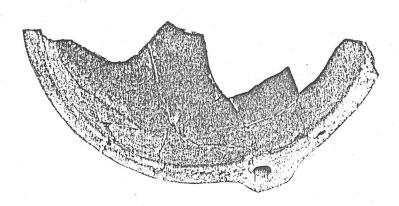


SD-01出土の土鍋

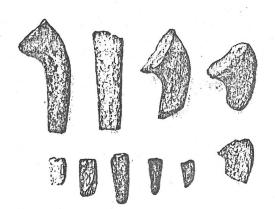
横から



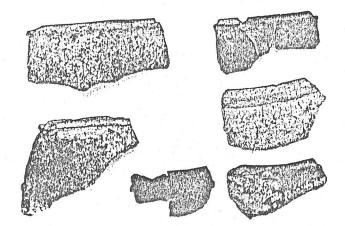
上から



SD-01及びSD-02 出土の土鍋の脚



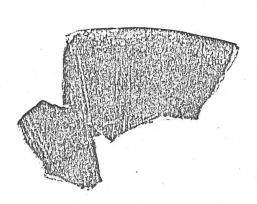
SD-01及びSD-02 出土の土鍋の脚

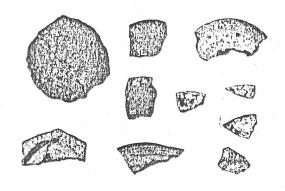


SD-01出土の土鍋

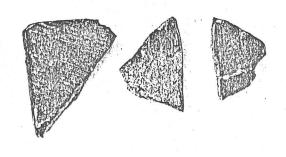


SD-01出土の揺鉢

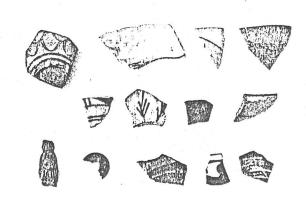




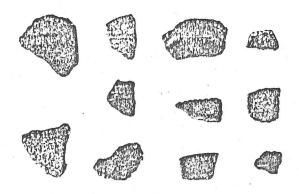
SD-02出土の古瓦



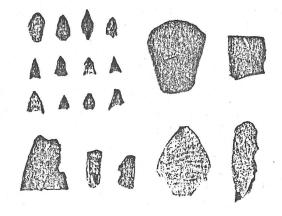
近世の遺物 染め付け 磁 器 土製入形 寛永通宝



弥生土器



サヌカイト製石器



※弥生時代の遺物は検出された遺構面(地山)上に 染み状に遺存していた落ち込みから出土した。

※SD-01からは、背磁(碗)の破片も出土している。